

ことば村シンポジウム

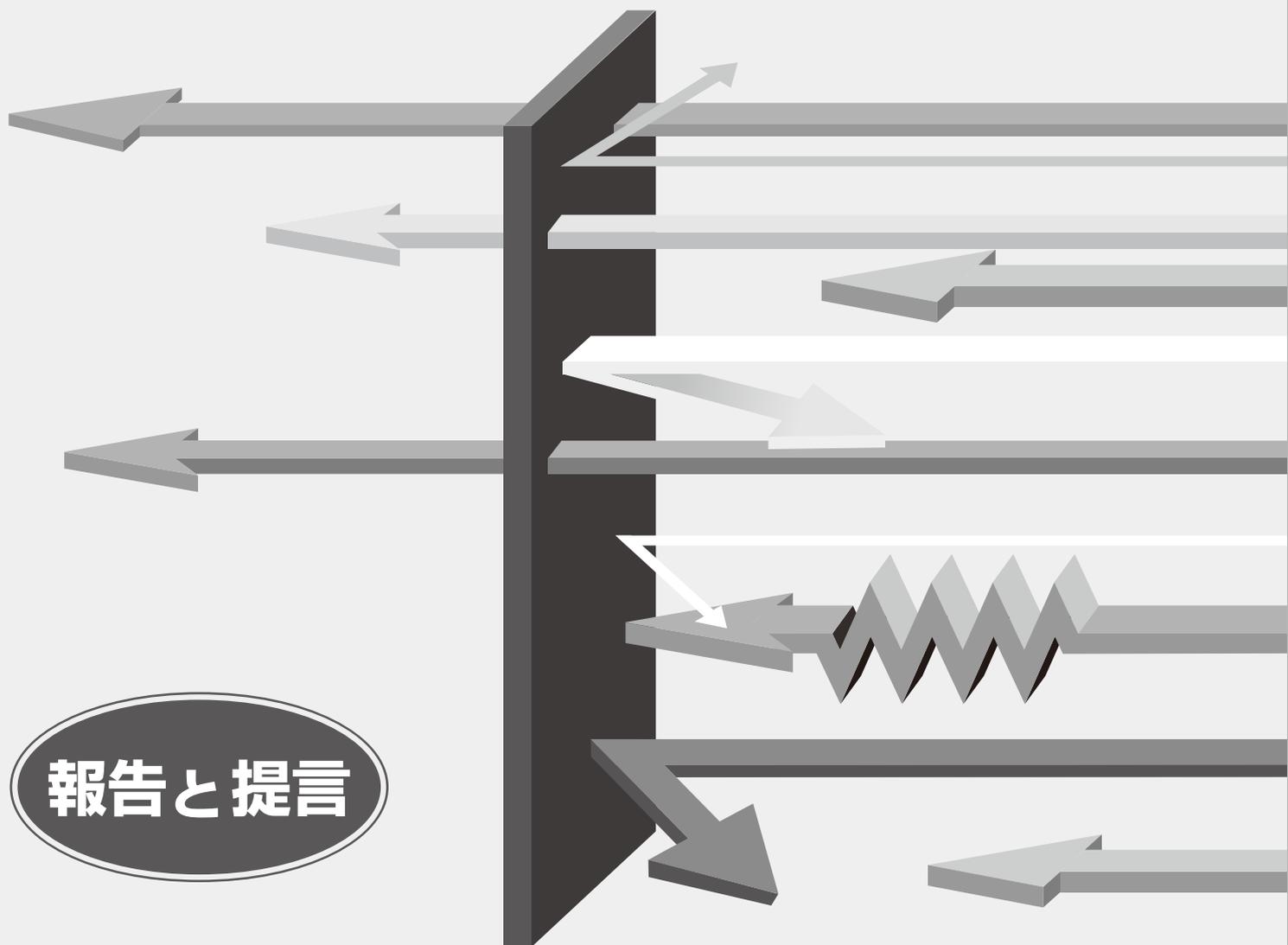
多言語社会日本

MULTILINGUAL SOCIETY JAPAN

災害情報はどのように伝えられたか

「多文化社会日本のメディア環境と課題」

2012年2月25日(土)13:00-17:00 国際交流基金JFICホール「さくら」



報告と提言

ご挨拶

今日のシンポジウムは放送文化基金の助成、国際交流基金の後援を受けて実現いたしました。初めに双方の関係者の方々に厚く御礼を申し上げたいと思います。

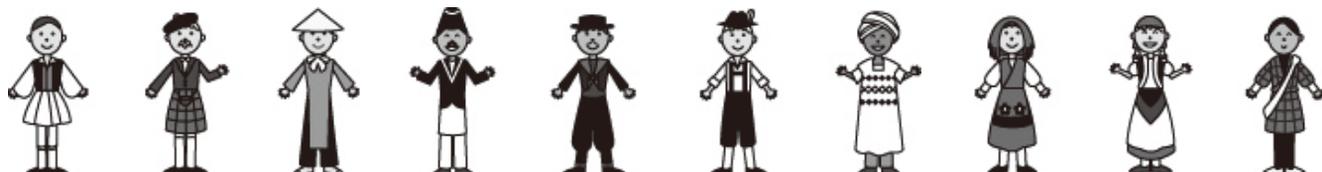
このシンポジウムを開くにあたり、私たちが心がけましたことは、今回の災害時の情報伝達に関して、なんらかの形で直接に関わってこられた方、また、できるだけさまざまな立場の方をお招きすることでした。そして、最適の方々に御出でいただくことができ、うれしく思っております。具体的な事実に基づいて、フランクに問題を提起していただき、それを踏まえて議論を展開したいと考えております。

今回の取り組みは、母語を異にする人々が望ましい形で共生できる社会をめざす私ども地球ことば村にとっては避けて通れない課題、ある種必然性のある課題であります。現在の私たちは国の内外で色々なことばを話す人と接する機会があるわけですが、母語を異にする付き合いというのは色々な困難や苦労を伴う、それが政治的な問題に繋がるような場合もあります。しかし同時に、目からうろこというような驚き、あるいは深い共感も含めて、知的な楽しみや精神的な豊かさをもたらしてくれます。その両方を味わいながら、望ましい共生の形を取っていくために何よりも大切なことは、母語を異にするひとたちと時間をかけて話し合うことだと考えます。私ども地球ことば村は、世界の、特に日本であまりなじみのない言語の情報を提供する、それから毎月定期的に小さな集会などを開き、母語を異にする人たちが顔を合わせ交流できる場を設ける、そのような活動しております。そういう活動の一環として今日のシンポジウムは開かれました。

今日のシンポジウムは「多言語社会 日本③」となっており、シンポジウムシリーズの3回目にあたります。一昨年は「多言語社会 日本①アイヌ語と琉球南西方言の再活性化－欧州評議会言語政策を参考に」、続く昨年は「多言語社会 日本②在日外国人のことばと文化－現在の問題と望ましい未来」が開かれました。3回目の今回は、災害時の情報伝達という切り口で、日本国内で共通日本語以外の母語を持って住んでいる方々の抱える困難や要望の現状を視、よりよい共生の在り方を提言して広く論議の土台に供したいと考えております。



NPO 法人地球ことば村・
世界言語博物館
理事長 阿部年晴



報告・提言集

● 報告と提言

多文化社会日本のメディア環境と課題委員会	04
----------------------------	----

● ことば村スタッフ現地調査報告

岩手県奥州市	05
宮城県仙台市ほか	06
福島県福島市ほか	07
茨城県水戸市ほか	08

● シンポジウムパネリスト発表

周飛帆(千葉大学言語教育センター准教授)	09~12
李善姫(東北大学国際高等研究教育機構助教)	13~16
日比野純一(特定非営利活動法人エフエムわいわい(神戸)代表理事)	17~19
米倉律(NHK放送文化研究所主任研究員)	20~24

● 全体討議

25・26

● NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館について

27

※「シンポジウムパネリスト発表」は、シンポジウムの雰囲気をお伝えするために、当日の音源から起こした発表をそのまま掲載してあります。またシンポジウムで配布した事前資料も、参考のためにそれぞれの発表の前に掲載してあります。